

可燃ごみの状況

～令和元年度可燃ごみ組成調査【速報値】～

資料－１

令和元年11月25日

木津川市廃棄物減量等推進審議会評価部会

1. 組成調査の方法等

サンプル収集日：１０月２５日（金）、２６日（土）

サンプル収集量：約４８０kg（約１６０世帯分）

木津地域	２９０kg
加茂地域	１３０kg
山城地域	６０kg

調査実施日：１０月２７日（日）

調査サンプル量：約３００kg

調査方法：調査員２３名により、手作業で各項目へ分類

分類項目：９７項目

収集後のサンプル



サンプル重量の計測



破袋・１次分別



次ページ

- ・細分別
- ・計量
- ・記録

細分類作業



一般厨芥類



食べ残し



手つかず食品



手つかず食品



雑がみ



繊維類

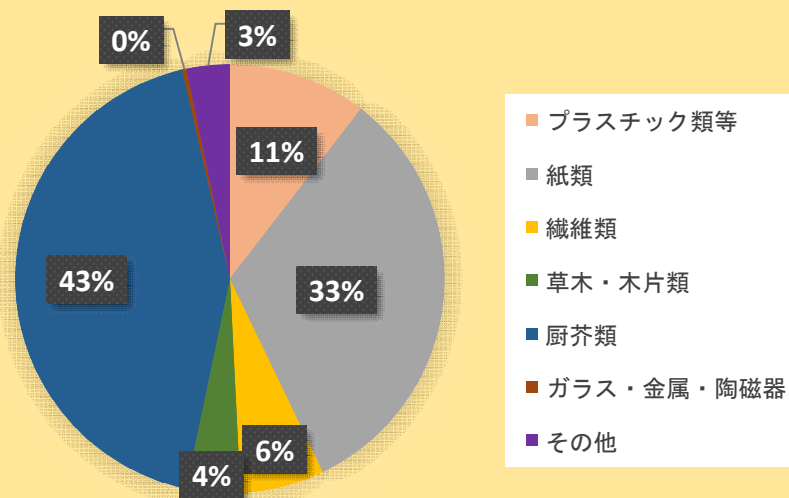


計量・記録

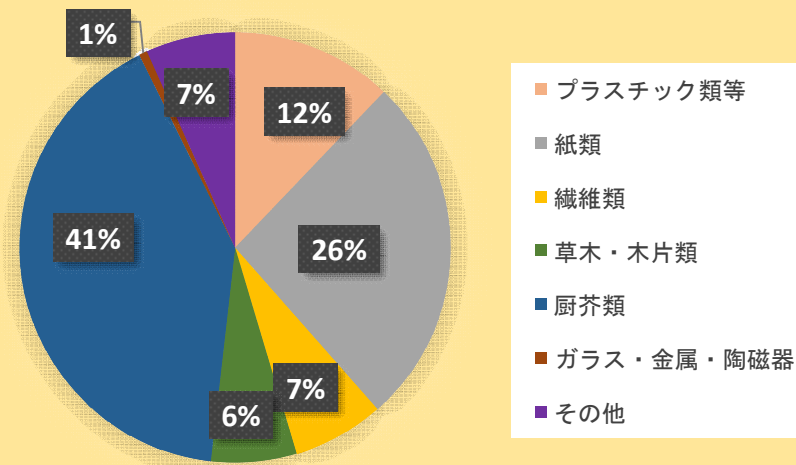


2. 調査結果の概要

H27調査【構成比】



R1調査【構成比】



上記のグラフは、調査サンプルの全量（約300kg）に対する各成分の重量構成比です。

〔例〕 R1調査におけるプラスチック類等の重量は、36.86kgでした。
$$36.86\text{kg} \div 303.85\text{kg} \times 100 = \text{約}12\%$$
〕

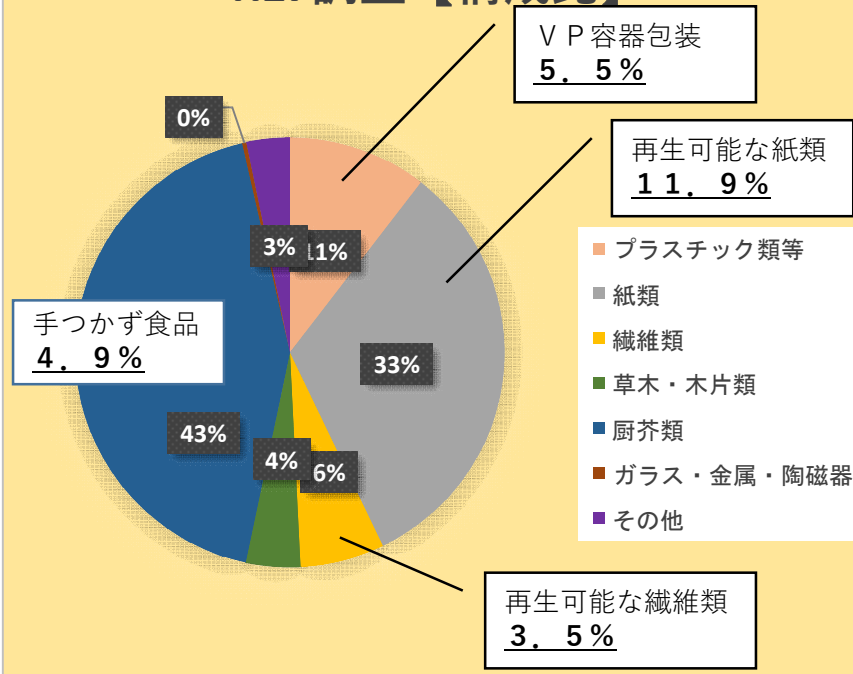
平成27年度と本年度の重量構成比を比較すると、「紙類」が約7%減少しているものの、構成比が高い成分の順位は同様の傾向となっています。

1位：厨芥類（41%）

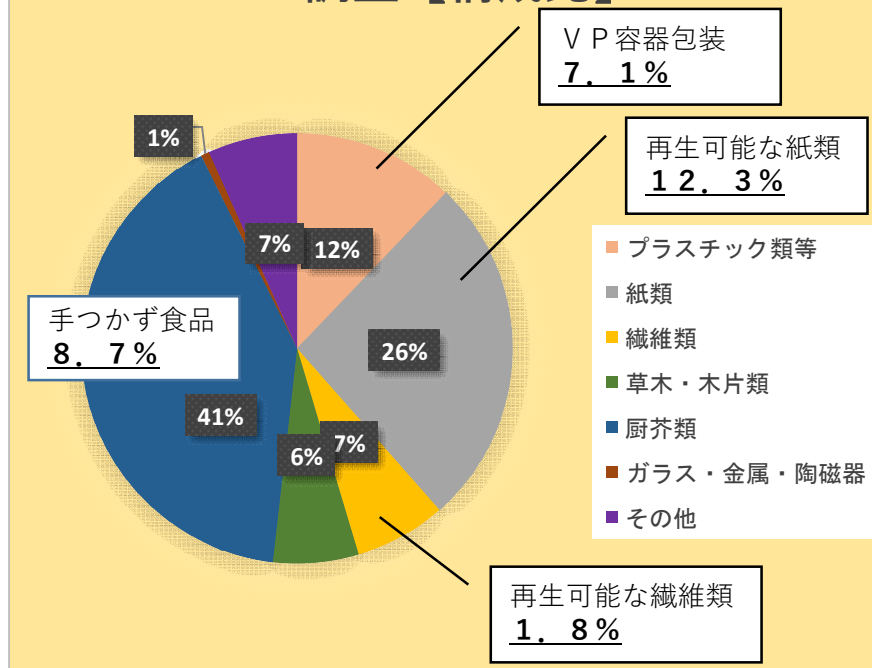
2位：紙類（26%）

3位：プラスチック類等（12%）

H27調査【構成比】



R1調査【構成比】



各成分のうち、更なる減量につながる再生可能な項目は、上記のグラフのとおりです。

紙類は、全体で約7%減少しているものの、再生可能な紙類はやや増加しています。

厨芥類も、全体ではやや減少しているものの、手つかず食品は増加しています。

これらの項目は、可燃ごみ減量の進み具合をチェックする目安として、「成果指標」に設定されているため、次の報告事項で詳しく見ていくこととします。

また、この重量構成比は、あくまでも調査サンプルに占める各成分の比率を表すものであり、減量の進み具合をチェックするためには、排出原単位に含まれる重量を求める必要があります。

排出原単位に含まれる成分別の重量

単位：g（グラム）

